

SW実習6組  
高田クラス  
(児童分野)

## 2024年度SW実習報告

榎下 瑠汰  
小柳 美空  
後藤 みのり  
佐々木 慈朗  
田中 みなみ  
二宮 綾音  
藤田 魁李  
前田 実佑  
李 聖夏

# 子ども真ん中支援を考える

## Contents

1. 実習先の概要
2. 実習の学び
  - ✓自己覚知について
  - ✓多機関・多職種連携について
  - ✓子どもに応じた支援について
3. ソーシャルワーカーとしての私たちの課題

## □実習先の概要

### INTRODUCTION

- 児童養護施設
- 児童相談所
- 児童心理治療施設
- 障害者支援施設
- 母子生活支援施設

## 社会的養護関連施設

- ◆社会的養護とは、保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと。
- ◆児童相談所は、要保護児童 家庭に対しての、調査、判定等を行い、「子どもの最善の利益」に即した形で、措置等を行っている。

- ◆児童相談所
- ◆乳児院
- ◆児童養護施設
- ◆児童心理治療施設
- ◆児童自立支援施設
- ◆母子生活支援施設 など

## 障害者支援施設とは？

◆「障害者支援施設」とは、障害者に対して、施設入所支援を行うとともに、施設入所支援以外の施設障害福祉サービスを行う施設。

◆同法人内の施設

- ・児童発達支援センター
- ・指定特定相談支援事業所 など

## 1日のスケジュールの例

時刻	児童養護施設	障害者支援施設
6～9時	平日 起床、身支度、朝食、登校	平日 起床、朝食、身支度
	休日 起床、身支度、朝食、自由時間	休日 起床、朝食、身支度
9～12時		平日 朝の会、体操、ティータイム、活動
	休日 勉強、自由時間	休日 自由時間
12～15時		平日 昼食、入浴準備、自由時間
	休日 昼食、外遊び	休日 昼食、自由時間
15～18時	平日 帰園、宿題、おやつ、外遊び、入浴、夕食	平日 活動、入浴、自由時間、おやつ
	休日 おやつ、外遊び、入浴、夕食	休日 自由時間
18～21時	平日 自由時間、就寝準備、就寝	平日 夕食、自由時間、就寝準備、就寝
	休日 自由時間、就寝準備、就寝	休日 夕食、自由時間、就寝準備、就寝

## 自己覚知について

### SELF-AWARENESS

## 自己覚知についての学び

◆自己覚知とは？

支援者自身が自らの考え方、感じ方、価値観、知識や技量等について、可能なかぎり客観的に把握し、自らの感情や態度、行動をコントロールすること。

◆自分の価値観だけで、クライアントをはからない

自分や社会の当たり前をクライアントに当てはめたり、要求したりするのではなく、その人のおかれている環境や想いの背景を知り、今の状態を受け止める努力が必要である。

## 実習で出会った家庭及び子どもたち



### ◆実習で出会った様々なケース

- ・我が子を虐待してしまう
- ・我が子に会いたくない
- ・連絡や面接に応じない 等

### ◆クライアントの背景

- ・保護者も被虐待経験、子どもの養育方法がわからない
- ・経済的に不安定で、生活維持に精一杯
- ・性被害等により望まない妊娠

### ◆実習生の否定的な感情

- ・なぜそんな気持ちになるの？
- ・責任感がなさすぎるのでは？

### ◆実習生の価値観

- 子どもは親が責任をもって出産し・育てることが当たり前だ。

自分や社会の価値観をクライアントに押しつけず、偏見なくニュートラルにその人の背景を理解しようとする姿勢が重要

## □多機関・多職種連携について

Multi-Institutional Collaboration & Inter-Professional Work

- 多機関連携によるケース会議
- 多職種連携によるケース会議

## ■多機関連携によるケース会議事の例

- ◆Aさん、女性
- ◆重度の知的障害＋強度行動障害
- ◆医療機関を退院後、訪問介護、訪問看護を受けながら一人暮らし。



- ◆ケース会議では、全支援機関が集まり、現在の情報共有と今後の支援について検討された。



## ■ケース会議の学び



- ◆多機関による情報共有を通して、状況の変化をとらえることの重要性
  - ・多面的理解に加えて、時系列的な理解も可能になる。
- ◆サービスに繋げるだけでなく、よりよい生活を支援することの重要性
  - ・サービスに繋げて終わりではなく、より良い生活を送るための支援を継続的に検討していくことが大切。
  - ・一機関だけでは、支援には限りがある。多機関との連携により支援の可能性が広げられる。



## □環境調整の視点

Enviroment

### 児童心理治療施設の現状

◆どういった子どもが入所しているのか？

- ・被虐待児 (79.9%)
- ・発達障害児 (39.7%)
- ・愛着障害 (21.4%) など

→対人関係のトラブルも頻発しやすい。  
基本的な生活習慣の獲得に困難がある

現在の社会的養護で推し進められている家庭的な養育環境による支援だけでは十分に対応できない部分がある

### 環境の視点に基づく支援①

◆安心・安全な環境作りとして、明確なルールを設定

具体例) 自由時間の過ごし方としては、一人の時間を優先している。

対人トラブルを予防し、落ち着いて過ごすことの心地よさを体感してもらう。

一般的には息苦しいと感じられるかもしれないが、明確なルール設定により、彼らにとって理解しやすい環境、人とのトラブルも起こりにくい環境につながる。

### 環境の視点に基づく支援②

◆子どもたちが自分の力を伸ばしていける環境の調整

具体例) グループ活動、小学生活動、中学生活動など

集団活動の中で、社会ルールやマナーを学び、他児とのコミュニケーション力を育む。

普段の自由時間では、他児と話す機会は少ないが、グループ活動を通して、職員の見守りの元、他児とのコミュニケーション力の向上を図る。

## 「環境調整の視点」の学び

- ◆ 子どもたちが安心・安全な環境で過ごしていくためには、「**環境調整の視点**」が重要。
- ◆ 何が安全・安心につながるかは、子ども達のそれぞれの状況によっても異なる。
- ◆ 「安全・安心」を基礎にしながら、子どもたちの成長、自立を促進していけるような環境設定も重要。



## □子どもに応じた支援

Children Centered Support

- 環境調整の視点
- 子ども理解について
- 子ども目線の支援について

## (2) 子どもへの理解

### ◆様々な特性を持つ子ども達

事例①：発達障害による**感覚過敏**があるため、大きな音に敏感で体調を崩してしまう子ども

- ▶▶▶ 【対応】 **静かな場所へ移動させ、落ち着くまで一緒にいる**

事例②：学習障害（LD）があり、**ひらがなやカタカナが分からない、文字が反転してしまう**等がある子ども

- ▶▶▶ 【対応】 **遊びの中で、楽しみながら文字を書く機会を作る（お絵描きや工作など）**

## (2) 子どもへの理解

### ◆集団の中での子ども達

事例③：家庭の中で自分の意見を言う（言わせてもらえる）機会が少なく、子ども集団の中で**自分の意見を言えない子ども**

- ▶▶▶ 【対応】 **みんなの意見を平等に聞くことができるよう順番に聞く。また、目を見る、頷いて聞くなどの話しやすい雰囲気をつくる。**

## 「子どもへの理解」に関する学び

- ◆ 日々の児童との関わりを通じた児童の特性や行動の観察
- ◆ 子どもの成育歴、家庭環境、発達特性に関する情報の収集
- ◆ 「集団の中での子ども」という視点



「子どもへの理解」の深まり、「子ども目線の支援」を考えることができる

## □子どもに応じた支援

Children Centered Support

- 環境調整の視点
- 子ども理解について
- 子ども目線の支援について

## 事例① 子どもの特性への対応

小学生に算数の文章問題の解き方を説明していると・・・

「わからない!!」と怒り出してしまった。

図を使った説明を試してみると・・・

## 事例① 子どもの特性への対応

すぐに理解し、自力で答えにたどり着いた。

本児は「視覚優位」の特性を持っていたため、言葉の説明では、理解しづらかった。

図を用いた視覚的な説明によって、スムーズな理解を促すことができた。

## 事例① 子どもの特性への対応

子どもたちが持つ様々な特性を理解し、  
その都度適切なかかわりを検討する必要がある。



特性を理解するには、  
子ども一人ひとりの目線に立つことが大切。

## 事例② 対人関係への対応

勉強しようとしていたA君がB君に対して  
煽り発言をした。



B君は不快な気持ちになった。



まず子どもたちの行動を見守る。

## 事例② 対人関係への対応

大人が間に入ってやめるよう助言をした。



本児同士で解決できそうにない場合  
(ヒートアップした時)



大人が介入する。

## ソーシャルスキルを意識した介入

双方の意見を聞き出す。



児童の発言をフィードバックする。



- ◆ 大人が児童の気持ちを代弁する。
- ◆ 大人の常識や理想を押し付けないこと
- ◆ 適切な方法を具体的なスキルとして教えること

## 事例②を通しての学び

- ◆ 子どもの将来のためには、子ども自身が**他者を理解する力**、**自分を表現する力**を身につけることは大切。
- ◆ しかし、様々な背景から、その力を身につけることは**容易ではない**。
  - ▶ ▶ ▶ ・児童の発言の**背景を理解**し、本来の思いを代弁すること
  - ・**子どもの困り感**に根差したうえで、子ども自身が自分のために必要だと思えるサポートを具体的に考えること

## □学びのまとめ

DISCUSSION

## 学びのまとめー子ども真ん中支援ー

- ◆ **自己覚知について**  
偏見なく、ニュートラルに理解しようとする姿勢
- ◆ **多機関・多職種連携について**  
ケースに関する深い理解と支援の可能性の広がり
- ◆ **子どもに応じた支援について**
  - ・子どもの育ちを促進できる環境を調整
  - ・子ども個々や集団の中での特徴理解
  - ・子どもの困り感に根差した支援、子どもが必要と思える支援

## □課 題

Issues and Tasks

□ソーシャルワーカーとしての自分たちの課題

## ソーシャルワーカーとしての私達の課題

- ◆自己覚知に関して
  - ・様々な経験を積み重ね、**想像力を磨く**必要性
  - ・社会も変化し、生活課題も変化していくため、**学び続ける姿勢**が大切
- ◆多機関・多職種連携について
  - ・自分の**専門性を磨く**
  - ・他職種からの**情報をどう活かしていくか**
- ◆子どもに応じた支援について
  - ・子どもや保護者を理解するための**知識量**
  - ・子どもや保護者と**協働する力**

## ご協力いただいた実習施設

- 児童養護施設
  - ・カーサ夕彩
  - ・立正学園
  - ・天心寮
  - ・広島修道院
- 母子生活支援施設
  - ・三宝厚生館
- 児童相談所
  - ・大阪府中央子ども家庭センター
- 児童心理治療施設
  - ・児童心理療育施設 悠
- 障害者支援施設
  - ・津山みのり学園

Thank You For Your Attention



Kansai University of Social Welfare